



榆

札幌市立北園小学校

学校だより

令和8年4月8日(水)

第 1 号

榆の木のように、強く まっすぐ

学校長 渋谷 一典

(本校第 21 回卒業生)

例年よりも雪どけが早く進み、地域のあちこちにも春の気配が感じられるようになりました。地面から顔をのぞかせたフキノトウや、花壇に咲き始めたクロッカスの姿に、新年度の始まりを実感しています。

保護者の皆様、お子様の御入学、御進級、誠におめでとうございます。今年度、校長として着任しました渋谷一典です。どうぞよろしくお願ひいたします。

学校には、その学校らしさを感じさせる言葉や風景があります。その一つが、学校だよりの題字にもある「榆 (にれ)」です。校歌の一番には、**ぼくもわたしも北園の かがやくニレのふたばです**とありますが、この歌詞には、北園小学校の子ども一人一人への温かなまなざしが表れているように感じます。まだ小さな「ふたば」かもしれない子どもたちですが、それぞれは自分らしく育っていく大きな可能性をもっています。学校は、その育ちを支え続ける場所でありたいと考えています。

校歌は、**きらきら きらきら 光をあびて～♪**と続きます。この「光」は、自然の日光だけでなく、友達の言葉や先生の励まし、御家庭での見守り、地域の皆様の声かけなど、周囲の人の日々の温かな関わり合いも意味しています。そうした環境で、子どもたちは認められ、励まされ、自分のよさを見付けてもらうことで、安心して伸びていくのでしょう。

そのため、今年度は、特に、**声を聴くこと**をこれまで以上に大切にしようと本校教職員と確認しました。子どもたちは毎日、それぞれの思いをもって登校してきます。張り切っている子もいれば、不安を抱えている子もいます。自信をもって話せる子もいれば、気持ちやうまく言葉にできない子もいます。だからこそ、はっきりと聞こえる声だけでなく、つぶやきや表情、しぐさの中にある思いにも耳を澄ませたいと願うからです。「自分のことを分かろうとしてもらえた」と感じられることは、安心して学校生活を送る基盤になります。そして、自分の声を大切にされた子は、友達の声にも同じように耳を傾けるようになります。「声を聴く」ことを、優しさを育てる出発点にしていこうと思います。

北園小学校の玄関には、**強くまっすぐ のびようよ**という大看板が掲げられていますが、これも校歌の一節を記した言葉です。ただ強くなれ、ただ頑張れ、ということではなく、自分のよさを信じ、仲間と支え合いながら、未来へ向かって歩いてほしいという願いを込めたものです。時にはうまくいかないことがあっても、立ち止まりながらまた前を向くこと。相手の思いを受け止めながら、自分の考えも育てていくこと。その積み重ねが、子どもたちを「強くまっすぐ」に育てていくのだと考えています。

今年度、教職員一同、保護者や地域の皆様とともに、子ども一人一人を大切に、その声を丁寧に聴きながら、「かがやくニレのふたば」を育ててまいります。

本校の教育活動への変わらぬ御理解と御協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

